



村民号で倉吉へ行ってきました

10月27日(日) 大人36人小学生6人幼児1人の参加で鳥取方面・倉吉白壁土蔵群散策に出かけました。到着時は雨が降っていましたが土蔵群散策時には傘の必要もなく、ゆっくりとレトロな街並みを楽しみました。ヒルゼン高原センターで昼食、アイスクリーム作り体験(50分)を楽しみました。スタッフの軽快なトークに誘導され、手順の区切りごとに全員がオッケーポーズで確認、音楽にのりのりで楽しく作ることが出来ました。手作りアイスクリームはとても美味しかったです。楽しかったと大好評でした。次に、ヒルゼンワイナリーでジュース・ワインを試飲し蒜山高原を後にしました。

帰りのバスではビンゴ大会を行い楽しく家路に着きました。売り切れてしまい買えなかった倉吉のお団子を求めて本店に寄り道するなどもありましたが楽しい村民号が実施できました。



身近で見られる植物 ④②

イヌタデ (犬蓼) 〈タデ科〉

庭や畑の周り、道端でよく見られる、赤いつぶつづの花を付けた雑草（と言う名の植物はありませんが）です。アカマンマと言って



ままごとで赤飯代わりに使ったりした記憶のある人もあるかと思



います。本物の蓼ではないという意味で、犬という文字が頭についています。花の時期は6月から10月ですが、今は、赤く見えても中には種が入っています。

秋祭り

10月13日（日）から14日（月）宿南各地区で秋祭りが執り行われました。

田中神社では13日夕方に子供神輿が川東・川西地区を「やっさやれ」のかけ声をかけながら練り歩きました。

14日午後にはコロナ禍で中断していた女子の腕相撲大会、こども奉納相撲大会が行われました。



3時から豪華景品が当たる餅まきがあり多くの参拝者でにぎわいました。

お知らせ

11月17日（日）宿南地区文化祭（午前 小学校学習発表会 午後 芸能発表会）

11月17日（日）兵庫県知事選挙投票日

11月24日（日）ふれあい隊・花水木の会 奉仕作業（宿南ふれあい倶楽部）



草庵先生紹介

日記 69



黙霖と筆談する草庵
（左）黙霖は障害があり会話はできなかったが、詩や文章を書くことにすぐれていた
宮崎和夫さん作

黒船来航以来、日本の国内は様々な対立を生み、騒然としてきていた。その年の秋、青谿書院に黙霖という僧が池田草庵を訪ねてきた。

「（前略）安芸の国（現・広島県）の僧黙霖という人が小島省斎の紹介状を持って来た。その人、聾啞のため筆談で対話して夕暮れになる。納得できないところがある」（嘉永6〈1853〉）11月3日

黙霖は討幕や尊皇攘夷の同志を求めて、全国を行脚していた。草庵は友人で柏原藩（丹波市）に仕えている小島省斎の紹介状を持ってきたので面会を断るわけにはいかなかった。

「講義は『史略』。検読4人。講義は『人譜』など。午後結髪。督課3人。講義は『論語』その間に時々黙霖と筆談でやりとりをする。（後略）」（同月4日）

塾生への講義などで忙しい合間に黙霖と筆談をした。しかし、草庵はもともと討幕や尊皇攘夷で行動を起こすことに熱心ではなかった。「僧黙霖に筆談で応酬する。塾生に検読3人。午後黙霖退去する」（同月5日）3日目にして黙霖は草庵を説得するのをあきらめたのだろう、書院から退去した。黙霖はその後全国的行脚を続け、特に吉田松陰に影響を与えたと言われている。青谿書院は3日間にして、また平穩に戻った。草庵は、塾生に次のように語ったことがある。「身は時勢の外に超え、しこうして心は経綸の思いに苦しむ」（「肄業餘稿」23条）意識すると次のようなことになるだろう。「自分は世の中の動きからは離れた山間の青谿書院に身を置いて過ごしている。しかし、ここで学問を深め若者を育て、それを通して世の中や政治のあり方がどうあればいいのかとあれこれ苦心して（考えて）いるのだ」激しい行動の中に身を置くことはなかったが、草庵もまた日本の国のあり方や自分の生き方について山間の青谿書院で真剣に考えていた。

池田草庵先生に学ぶ会